2020年9月 台風10号 みんなの備えを振り返ってみた

（9月10日　NHK NEWS UPほか）

最大級の警戒が呼びかけられた9月上旬の台風10号。九州を中心に死者や行方不明者が出たほか、建物の被害も相次ぎました。ネット上では、これまで何度も強い台風を経験している九州地方の人たちからも「初めて真剣に備えた」という声が聞かれました。

次の台風に備えて今回の経験を振り返り、実際に行動してよかったことなどを聞いてみました。（ネットワーク報道部記者　大石理恵　國仲真一郎）

「息子と停電対策のために凍らせたペットボトルの水をラインで見せ合う」

投稿した山口県下関市に住むかずこさんに話を聞きました。これまで災害に備える意識は薄かったということですが、今回の台風で意識が変わったといいます。

「過去に例を見ないほど大きくて強い勢力だと聞いたので、怖くなってちゃんと準備をしようと」まずハザードマップで自宅周辺に浸水の危険がないことを確認しました。

また、過去に停電が長引いて苦労した経験を思い出したかずこさん。家族3人分の水や懐中電灯、料理用のガスボンベを用意したほか、自宅にあった10本ほどのペットボトルに水を入れ、冷凍庫で凍らせておきました。**停電しても凍らせたペットボトルがあれば、しばらくは冷蔵庫の機能を保つことができる**と考えたからです。

台風が接近した今月6日の深夜。かずこさんの自宅は半日にわたって停電し、備えが実を結んだということです。

「しっかり準備していたので、過去の台風の時とは安心感がまったく違いました。幸い大きな被害はありませんでしたが、次に台風が来たときも、同じように備えたいです」

SNS上で特に多くみられた投稿は、窓ガラスが割れた時に破片が飛び散らないよう、窓ガラスに養生テープを貼る対策でした。

長崎市にある「中村塗装」の中村専務は台風が近づいた今月5日、**倉庫に保管していた養生テープや粘着テープを段ボール箱に入れて事務所に並べ、SNSで次のように呼びかけました。**

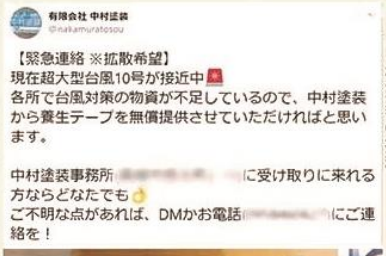
「受け取りに来られる方ならどなたでも」

すると、10分後にはテープが欲しいという人たちが次々と会社を訪れたそうです。

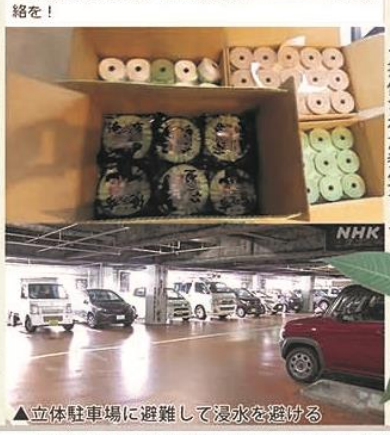
「台風の前にホームセンターに行ったら養生テープが不足していて『うちにいっぱいあるのになぁ』と思いました。確認したら倉庫に10箱あったので、**少しは提供しても仕事に支障はないと思って提供を決めました**」

「子どもから聞いてきた」という高齢者や、幼稚園の関係者なども会社を訪れ、2日間で、およそ450個の養生テープなどを提供したということです。

「新型コロナウイルスの感染拡大で**全国的にマスクが不足したとき、うちは塗装業者なので、優先的にマスクを入手できていたのですが、一般の家庭に行き渡らないことがずっと気にかかっていました。**あの経験を踏まえてまわりの人たちに少しでも貢献したいという思いが今回の判断につながりました」



◀中村塗装の投稿



◀提供された養生テープ

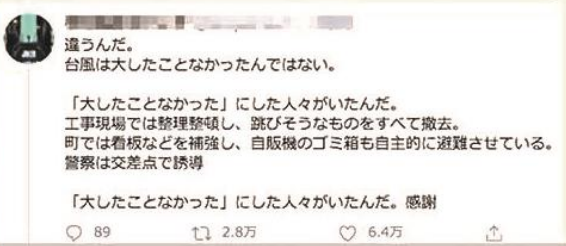
▲立体駐車場に避難して浸水を避ける

台風が九州本土に近づきつつあった今月5日。鹿児島市では、中心部にあるパチンコ店「ユーコーラッキー新屋敷店」が**地域の人たちに立体駐車場を開放しました。**

SNSで周知すると、浸水の被害から車を守ろうと大勢の人が集まり、1日もたたないうちに275台を収容できる駐車場は満車になったということです。

鹿児島市は中心部の多くが浸水想定区域に指定されているため、このパチンコ店は、**これまでも台風に備えて立体駐車場を解放してきました。満車になったのは今回が初めて**だということです。

「台風10号が『過去最大級』とか『例を見ない強さ』などと伝えられていたため、**多くの方が危機感を持ったのではないかと思います。**大きな被害は出ませんでしたが、今後も有事に備えて駐車場を開放するなどの対応を取りたいです」



資料：NHK NEWS UP、twitter

MONTHLY
「東北に黒潮を送ろう！大作戦しんぶん」改め
復興支援 かわらばん
『すけさきた』しんぶん
「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である
OCTOBER 11 2020

we support
RQ 災害教育センター

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）